

ピヨとの出会い

二年 岡田寿奈

ピヨとは、スーパーのうずらの卵を孵化させて産まれてきたうずらのことです。孵化させたきっかけは、約三年前兄が夏休みの自由研究をした時でした。うずらは産まれるまで十七日掛かり、そのうちの十五日間は毎日三時間おきに、卵の中の胚が殻の内側に貼り付くことを防ぐために、転卵を行う必要があります。

そして、自分の力で殻を割りピヨは産まれてきました。産まれて三日間は、山場でしたがピヨは山場を乗り切りすくすく成長していききました。

ピヨは、人の好き嫌いが激しく私と弟は最初嫌われていました。でも、ピヨと遊んだり触れ合っているうちにだんだんと懐いて、ゲージを開けるとピヨンピヨン飛びはねて手を入るとスリスリしてくれるようになりました。

一ヶ月が経ちピヨはメスだということがわかりました。メスは、毎日卵を産むので毎日ピヨも卵を産んでいました。私は毎日苦しうに卵を産んでいるピヨを見て、胸が痛くなりました。それでも、ピヨは毎日卵を産み続けました。メスのうずらは、卵を産む関係で寿命が二〜三年しかありません。その

短い寿命を私達家族は大切に育てて去年二才になりました。

しかし、あと少しで三才になるとい時ピヨは亡くなりました。ピヨは、亡くなる時に家族が全員帰ってくるのを待ってくれました。ピヨが亡くなった時、家族全員で泣きました。その時に私は、ピヨは今まで幸せだったのか考えました。でも、ピヨの写真を見返した時とても幸せそうなピヨの写真を見てピヨは幸せだったんだと思うことができました。そして私達家族はピヨに元気をもらっていたんだと気づきました。

ピヨを育てるまでは、命の大切さについてなにも知りませんでした。けど、今はピヨのおかげで理解できました。動物は人間とは違って寿命が短いので、その命を私達は大切にしていかなければなりません。そして動物を育てるためには責任感をもつ覚悟が必要です。命というものは、それほど重いということを私は知ることができました。私達は最後まで命を大切にする覚悟と責任を忘れてはいけません。